

(第2回 午前)

2020(令和2)年度適性検査問題

適性検査Ⅰ

(実施時間：45分)

《注 意》

- (1) 問題は **1** のみです。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに書いてください。
- (4) 解答用紙のみ回収します。

城西大学附属
城西中学校

1 次の「文章1」と「文章2」を読み、あとの問題に答えなさい。

文章1

ある大学で、賛成・反対に分かれて討論する「ディベート」を組みこんだ教育学の講座を担当したときに、恩田智江さんという学生がთვისのような感想を書いてきました。

「これがディベートかなと肌はだで感じたのは、アメリカを二か月間旅行したときでした。いつもユースホテルを利用していました。私はリビングルームでくつろぐことができませんでした。それはなぜか。リビングルームは多種多様な人種※1の坩堝つぼであるばかりではなく、いつもたいていあるテーマにそって論争している場所だからでした。

私は英語が苦手ですから、その輪には当然のように入れませんでした。むこうで知り合ったTOEFL※2六〇〇点（アメリカの有名私立大学院に留学できるレベルの語学力）という日本人の三人娘の場合も、論争ができないからその輪には加わることができないと言っていました。気軽に会話をかわす力があるのに……と、そのときはとても不思議に思いましたが、自分がこのクラスでディベートを経験してみて、なるほどと思いました」。

もちろん外国語を流暢※3に話せるに越したことはありませんが、じつはそれだけでは不十分なのだということがこの経験からおわかりだと思えます。これからは討論の輪に加わって、世界の若者たちと意見を交換できる人材がどんどん育てほしいものです。ただそのためには、日本語であれ何であれ、自分のメッセージを発信するという訓練を日ごろから意識的にこなしていく必要があることは言うまでもありません。

この恩田さんの経験は、じつはICU※4高校の帰国生たちの経験とも重なりあうものです。いくつかの授業クラスで「海外で暮らした立場から、国際感覚に関連して身につけたほうがいいものがあるとしたら、それはなんだろう」と聞いてみました。すると、まっ先に出てくる答えがあります。

その第一は、ものごときたいして自分なりの考えをもつということ。そのつぎに、自分の考えを堂々と発表したり、また多くの人と討論したりできるようになるということです。

海外の学校では、つねに「きみはどう思うのか」とか、「あなたの意見はどうか」と問いか

けられます。ですから、いやでも自分の考えをもたざるをえないのが実情です。それも、「にやにや笑い」でごまかしたり、「こそこそ話」をするのではなく、堂々と自己主張したり自己アピールができることが求められます。

ところがこうしたことは、日本に暮らす私たちにとってけっして簡単なことではありません。たとえばイギリス・ケンブリッジ大学のサマースクールに参加した国内生の尾崎美穂子さんがこんな経験を話してくれました。彼女は高校二年生。はじめての長い海外語学研修に参加するため、はりきって出かけたそうです。

「いろいろな国から生徒が集まっているので、授業以外のときでも英語を話すということが暗黙の了解あんもく、りようかいになっていました。でも、同じプログラムに参加した日本人のなかには、日本語でこそこそ外国人の悪口を言う人たちもいて「いやだなあ」と思っていました。

ところがハイキングに出かけたとき、どういうわけかスペイン人の子のグループが固まってしまい、スペイン語でばかり話しています。私は気になったので、となりにいたイタリア人の子に、「英語で話してくれたらいいのね」と不平をもらしました。すると彼女が大きな声で「ちょっとみんな、スペイン語で話すのやめようよ」と明るく言っただけです。頭がガーンとしました。「たったこれだけのことをどうして自分で直接言えなかったんだろう」と本当に情けなくなってしまうからです」。

ただ尾崎さんの場合は、この経験が教訓となって、ますますいろいろな人に溶けこむ努力をするようになったと言います。

（渡部 淳 『国際感覚ってなんだろう』）

※1 垣堦：種々のものが入りまじった状態のたとえ。

※2 TOEFL：英語を母語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテスト。

※3 流暢：言葉づかいがすらすらとしてよどみのないこと。

※4 ICU高校：「国際基督教大学高等学校キリスト」のこと。外国からの帰国生が多くたいせき在籍する。

最近アメリカの大学では中国人やインド人の留学生も増えています。彼らと日本人の大きな違いは、「英語を習得する」ことを留学の目的にしていないうこと。中国やインドの人達がアメリカの大学に留学するのは、より高いレベルの学歴を身につけて母国でステップ・アップするためであり、アメリカで人脈を作ることによって高い地位を獲得すること、そして母国の発展に寄与することを目的としています。

これに対して、「英語が堪能になるため留学する」ことが多く、「外国で生活すれば英語がうまくなる」と信じているのが日本人ですが、これは本当なのでしょうか。

単に「英語がしゃべれるようになる」「英語で日常会話ができるようになる」ことなら、アメリカで一か月も生活すればそれは簡単に実現できるでしょう。そういう意味では、「外国に渡れば英語がしゃべれるようになる」のは確かなことです。ただ、問題は「どんな内容を話しているか」ということ。どうやら「英語がペラペラになりたい」と考える人達は、このような観点がすつぽりと抜け落ちてるように思えてなりません。

繰り返し返しますが、アメリカで一か月も生活すれば、英語はしゃべれるようになります。

しかし、それはあくまで日常会話ということ。簡単なあいさつから、「これいくら?」「これは何?」などはたちまち言えるようになるし、買い物に行っても何をしても、たいていのことは「見れば分かる」ので、いちいち話さなくてもさほど困ったことになりません。

でも、例えば「日本文化について」「日本の政治について」あるいは「日本とアメリカの大学の違い」や「日本の若者が抱えている問題について」などを語れるかという点、これは難しくなってきました。

アメリカには、移民の人達がたくさんいます。彼らは自分の国では食べていけないほどの貧困から抜け出すためにアメリカに渡ってくるのですが、多くの人達は英語がまったくしゃべれないのにアメリカにやってきました。しかし、アメリカでなんとか仕事を見つけないと生きていけないから、それこそ必死に英語を体で学んでいくのです。

仮になんとかトイレ掃除の仕事を見つけたとしたら、トイレや掃除にまつわる言葉から入り、トイレにやってくる人達の会話に必死で耳を傾けることで、次第に英語を体で学んでいき

ます。そして、もっといい仕事にありつくために、死にもぐるいで英語をマスターしていくのです。

英語をマスターすることは、アメリカで生きていくために不可欠なことだし、英語を覚えられないからと自国に帰ったところで生活ができないから、その努力は「B」としか言いようがありません。

「外国に行きさえすれば英語がしゃべれるようになる」と考える日本人に欠けているのは、まさにこの「B」さ」と言えるでしょう。

これは日本が豊かな国だからこそ抱えている問題なのかもしれません。生きていくためにブラジルに移住した時代ならいざ知らず、今の時代「日本では生活できないから、アメリカで一旗あげて」という人はまずいないでしょう。そのため、たとえばアメリカで生活をするチャンスに恵まれても、「だめだったら日本に帰ればいいや」という考えがどうしてもつきまといまいます。

語学留学と称してアメリカに渡っても、結局触れ合うのは日本人留学生ばかりで、日常会話以上の英会話レベルが身につかないという人は、本人の「B」さがないということの証明としか言えません。

ネイティブと日常会話以上の会話を交わすためには、「アメリカにいた間は日本語は一切しゃべらない」「たとえば英語に自信がなくても、積極的に自分から話しかけて会話のスキルを高める」「会話のためにおしゃべりのネタを常に考える」などの努力が不可欠です。「英語を勉強するため」ではなく、「英語で勉強する、英語で何かをする」と頭を切り替えない限り、本当の英語力は身につかないもの。これは長年留学カウンセラーとして仕事をしてきた私の実感です。

（栄陽子『留学で人生を棒に振る日本人』）

※1 寄与…力をつくして社会や人のために役に立つこと。

※2 スキル…熟練した技術。

問一 —— 部A「それだけでは不十分なのだ」とありますが、筆者は他にどのようなことが大切だと述べていますか。「〜」ことが大切である。」に続く形で **文章1** の中から三十五字以内で抜き出して答えなさい。

問二 空らん **B** に入る言葉を **文章2** の中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

問三 **文章1** と **文章2** それぞれの「英語習得」についての考え方に共通する内容をまとめ
た上で、あなたが異文化の人とコミュニケーションをとる際に大切だと考えることを、
四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件ときまりにしたがうこと。

条件1 三段落構成にし、第一段落には **文章1** と **文章2** に共通している考え方を書き、第
二段落および第三段落では第一段落で説明した内容についてあなたの考えを、内容やまとま
りに応じて、自分で構成を考えて書くこと。

条件2 あなたの考えは、一つにしぼり、理由を含めて書くこと。

【きまり】

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話を入れるときは行をかえてはいけません。
- 記号も一字と数えます。記号が行の先頭にくるときは、前の行の最後の字と見なす目に書きます。(ます目の下に書いてもかまいません)
- 段落をかえたときの残りのます目は字数として数えます。
- 最後の段落の残りのます目は字数として数えません。

